

ガスコンロに 「認知症進行予防」 の願いを込めて

2024/5/8

西部ガス株式会社

①【きっかけ】当事者の声を受けて

2019年冬、認知症セミナーでお会いした当事者の方から「私はガスでないと料理をし
たくない。」との言葉をいただいた。

「何としてでも、当事者が使用可能なガスコンロを世に送り出したい」と考えるようになった。

②【確信】当事者と共に料理して

2021年11月、福岡市様の取組み「福岡オレンジパートナーズ」との共同企画にて、当事者の方やそのご家族、医療関係者等を交えて料理を行った。

帰宅後の当事者の方がご家族に、『何をしたのかは思い出せないけど、今日はとても
楽しかった。』と発言してあったと聞き、「絶対ガスコンロは必要である！」と確信した。

<みんなで楽しくお料理編> 当日の様子



①ガスコンロの効果

- ◆ガスコンロは単なる料理の手段ではなく、家族の対話・団らんを生み出す、
“魔法のツール”と化けることができるのでは！？
- ◆料理を通して対話が増え、また「楽しかった」という感情記憶も生まれることで、脳が活性化し、認知症の進行を予防することができるのでは！？

②当事者の方が住み慣れた家や地域で暮らし続けるために

高齢者を中心に周囲との会話が減ると、認知症の進行も早まる可能性がある。

ここで、「住み慣れた家に家族がいて、いっしょに会話しながら料理をつくることができる」

「住み慣れた街の施設で、昔からの仲間たちといっしょに会話しながら料理をつくる

ことができる」といった環境があると、楽しみながら進行を予防でき、当事者の方々も、安心できる住み慣れた街で継続して暮らしていくことができるのではないだろうか？

このように、当事者の皆さんが望むことを実現し、継続していくためにも、『ガスコンロを中心とした環境』を日本や世界のあちこちの街に誕生させたい。

（最後に・・・昔からガスの炎を用いて料理をしてこられた当事者の方々には、過去の記憶が残ってあることからガスコンロとの親和性が高いと私は確信していることも伝えさせてください。)